

2025年度 施策マネジメントシート【2024年度実績評価】 作成: 2025 年 6 月 20 日

施策番号	施 策 名	消防・救急の充実	基本目標 自然と共生する災害に強い安全・安心のまちづくり	
			政策名 安全・安心に暮らせる生活環境づくり	
	主 管 課	茅室消防署	課長名	松久 哲也
	施策関係課	総務課	内 線	62-5377

1. 施策の方針と成果指標

施策の方針		対 象		意 図				結 果	
災害の拡大防止と、緊急時の迅速かつ的確な対応に向けた備えをすすめます。		町民、消防・救急体制		・予防意識の醸成と、災害・緊急時の迅速かつ的確な支援 ・消防・救急体制の充実を図る				町民の生命・財産を守る	
成果指標		説 明	単 位	策定時(基準値)	2023年度実績	2024年度実績	2025年度実績	2026年度実績	2026年度目標
①	住宅用火災警報器の設置率	消防署調べ	%	70.0 (R3)	68.0	75.0			90.0
②	火災出動件数	消防署調べ	件	20 (R3)	13	8			10件以下
③	防火講習会・普通救命講習会参加者数	消防署調べ	人	388 (R3)	1031	1503			2200
④									
成果指標設定の考え方		①1年7%上昇を目標として算出したもの。 ②近年の火災出動の動向を基に目標値を算出したもの。 ③自主防災組織数の増加による参加者増を見込んで算出したもの。							

2. 施策の事業費

	策定時決算	2023年度決算	2024年度決算	2025年度決算	2026年度決算
施策事業費（千円）	345,564	399,072	384,165		

3. 施策の達成状況

(1) 施策の達成度とその考察									
①2024年度の 成果評価 (前年との比較)	<input checked="" type="checkbox"/> 成果は向上した		想定され る理由	①新築及び改築に伴い設置率は微増。 ②計画的な防火査察とパトロールの実施。 ③茅室町の防災訓練と連携した防火・救急講習の実施。					
	<input type="checkbox"/> 成果は変わらなかった								
	<input type="checkbox"/> 成果は低下した								
②第5期総合計 画後期実施計画 (2026年度)の最 終的な目標達成 状況	<input type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標は達成でき る		根拠 (理由)	①後期高齢者を対象とした取り組みの推進。 ②事業所に対する防火指導の徹底。ゴミ焼却止の防火 パトロールの強化。 ③町との連携強化。町内会、自主防災組織及び企業へ 各種講習会開催の働きかけ強化。					
	<input checked="" type="checkbox"/> 現状の取組の延長で目標達成は難し いが、現行事業の見直しや新規事業 の企画実施で目標達成は可能								
	<input type="checkbox"/> 事業の見直しや新規事業の企画実施 をしても目標達成は難しい								
(2) 施策の成果評価に対する2024年度事務事業総括									
①施策の成果向 上に対して貢献 度が高かった事 務事業	茅室消防署活動事業		②施策の成果向 上に対して貢献 度が低かった事 務事業						
	茅室消防団運営事業								
	茅室消防施設整備事業								
③事務事業全体 の振り返り(総括)	・災害現場における消防職員の安全・迅速な活動を遂行するために必要な、被服や特殊装備の更新を計画的に実施し、各種講習会の受講、救急隊員病院実習及び消防学校専門課程の入学で得た知識を職員全体で共有し能力の向上を図った。 ・消防団に配備されている消防自動車の安定した運用を目指すため、団員の中から機関員育成を目的とした、団員大型免許取得事業を令和6年度から公費負担として毎年度1名取得している。 ・複雑多様化する災害に対応するため、消防車両の安定した運用が求められていることから、車両(積載装備含む)の更新を計画的に実施する。								
	(3)「施策の方針」実現に対する進捗結果(計画策定時との比較)								
担当課 評価	消防として、施策の推進を一定程度進めることができた。 災害現場における安全・迅速な活動を遂行することができた。 計画策定時と比較して前進した。				A	B	C	D	E
				進捗結果			○		

A: 実現した B: (後期実施計画策定時と比較して) 大きく前進した C: (後期実施計画策定時と比較して) 前進した
D: (後期実施計画策定時と比較して) 変わらない又は維持した E: (後期実施計画策定時と比較して) 後退した

4. 施策を取り巻く状況変化・住民意見等

施策を取り巻く状況と今後の予測	<p>《施策を取り巻く状況》</p> <ul style="list-style-type: none">・少子高齢化に伴う人口の減少と高齢者人口の増加 ⇒令和6年度の芽室消防署が対応した救急出動に占める65歳以上の割合は約67.6%。 ⇒令和5年消防白書の建物火災死者数に占める65歳以上の割合は約73.8%。 ⇒消防団員の定数不足と高齢化。 <p>《今後の予測》</p> <ul style="list-style-type: none">・芽室町及び近隣市町村の少子高齢化が進むことで、救急出動件数の増加が予測される。・芽室町の少子高齢化に伴い、高齢者世帯が災害に巻き込まれる確率が高まる。・消防団員の定年退職に伴い、平均年齢の上昇と定員不足の慢性化が予測される。
この施策に対して住民・審議会・議会からどのような意見や要望が寄せられ、どのように改善したか。	<ul style="list-style-type: none">・住宅用火災警報器の設置について、対象を年齢で分けるのではなく、築年数が古いエリアを中心に巡回した方が効果的ではないか。 <p>芽室町の設置率を調査することが目的のため、築年数が古いエリアを巡回すると正確な設置率を調査できないことから、調査手法としてはランダムに抽出した住宅を対象とする必要があります。調査の過程で、未設置世帯を確認した際は設置の指導をおこなっています。</p> <p>後期高齢者75歳以上を対象とした理由は、消防白書の全国建物火災死者数に占める65歳以上の割合が高いことから、対象年齢を絞り込むため後期高齢者としました。</p>

5. 施策の課題認識（現状の課題、第5期総合計画後期実施計画期間において新たにに取り組むべき課題）

<p>●防火講習会・普通救命講習の推進（芽室消防署活動事業） 町民が防火・防災・応急手当に関する知識と技術を習得する機会として、講習会の開催を推進する。</p> <p>●火災予防の普及と住宅用火災警報器の設置・取替え（芽室消防団運営事業） 独居老人宅防火訪問や幼年消防クラブ活動を推進し、高齢者や子供達を災害から守ると共に、防災や応急手当に関心を持った人材の育成を図る。 町内で開催されるイベント会場において、住宅用火災警報器の設置・取替えに係る広報活動を実施する。</p> <p>●消防・救急体制の充実・強化（芽室消防施設整備事業） 複雑多様化する災害に対応できる消防体制を構築するため、専門知識の修得、近隣署所との合同訓練、消防車両や各種資機材の研究・調査及び必要とする装備の計画的な配備・更新を進める。</p>
--

6. 経営戦略会議（庁内評価）

評価	成果指標等から、前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	5に記載の取り組みを進めてください。	A:実現した B:（後期実施計画策定時と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定時と比較して）前進した D:（後期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した E:（後期実施計画策定時と比較して）後退した					

7. 総合計画審議会（外部評価）

評価	庁内評価同様に前進したと評価する。		A	B	C	D	E
		進捗結果			○		
今後の取組に対する意見	<ul style="list-style-type: none">・火災予防は住民意識の向上が大事であるため、講習会や報知器の設置を進めてほしい。・熱中症による出動あったと周知すれば、予防の啓発となるのではないか。・活動等について広報誌や町の公式なものでも発信をしてはどうか。	A:実現した B:（後期実施計画策定時と比較して）大きく前進した C:（後期実施計画策定時と比較して）前進した D:（後期実施計画策定時と比較して）変わらない又は維持した E:（後期実施計画策定時と比較して）後退した					